

2020年度 事業報告

2020年4月1日～2021年3月31日

公益社団法人 神奈川県助産師会

はじめに

「助産及び母子保健の普及・啓発」「助産師の資質向上のための教育及び環境整備」を主とし、さらなる適切な事務の運営・財務管理の徹底を目指すとともに、本部との連携活動を図りながら本会の目的達成を目指した。

I 助産及び母子保健の普及・啓発及び調査・研究に関する事業

本会主催の出前講座を主としたセミナー・研修会を開催し、広く多くの人への助産及び母子保健の普及・啓発に努める

1 助産及び母子保健の知識の普及・啓発活動

(1) 助産及び母子保健の知識の普及・啓発

・タクシードライバーに助産及び母子に関する知識を普及啓発する

タクシードライバー研修 出張講習 合計1回実施、受講人数18人

(個人向け講習会を予定していたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止)

・女性の健康支援を通し、母子保健の知識の普及・啓発を図る

女性のための健康講座、以下を企画 申し込みがなかったため実施できなかった。

2020年10月1日、10月6日、10月10日 オンライン講座3件

「もしかしてプレ更年期？アラフォーママのための健康講座」

女性のための健康講座、以下をそごう横浜店従業員対象に企画したが、新型コロナウイルス感染防止のため延期となった。

2021年2月27日「更年期を幸年期へ～メノポーズを乗り切るコツとは？～」

・卒業間近の助産師学生が助産師の多様な働き方を再認識し、自己の将来について考える機会を作る

2020年3月より新型コロナウイルス感染防止のため中止となり、2021年3月の依頼なし

・他団体からの要請に応じて会員より研修講師を選定し派遣する

① 上智大学「多機能助産所について」、講師として会員を派遣した。

② 第34回神奈川県母性衛生学会学術集会において、座長として会員を派遣した。

・本会活動や助産及び母子保健、ならびに助産師の教育に関する情報を広報する

① ニュースレター（広報誌）を発行（12月号）し、当会の事業紹介や先輩助産師のインタビュー記事、広告3社を掲載し、会員へ送付した。

② 3年に1度の助産師マップの改正を行った。チラシ形式とし広告4社を掲載し、会員、学校、医療機関等へ送付した。

③ 本会活動を紹介する最新の情報等をホームページやfacebookに掲載、更新した。

④ 次年度計画している当会PR動画の作成、SNSでの広報活動に向けての話し合いを実施した。

(2) 子育て・女性健康支援事業

・子育て・女性健康支援センター事業（ハローベビーかながわ）の推進

① 電話相談 月～土曜日（祝日含）10時～16時 相談件数：939件

2020年4月～8月 神奈川県からの依頼により、コロナ関連の妊産婦の不安に対応した。そのため、昨年より相談件数は20～30%/月増加、コロナ関連の相談は全体の23%だった。

9月以降は、県委託新型コロナウイルス感染症妊産婦相談事業が始まり、コロナ関連の相談数は移行していった。また、コロナ関連以外の妊産婦の不安内容は、重症化し1回の相談時間が昨年と比べ長くなっている。

- ② 「ふれあい助産師サロン」ベビーマッサージ&育児相談、母乳と離乳食・授乳と卒乳について 新型コロナウイルス感染防止のため中止した。
- ③ 電話相談などの相談業務の資質向上のための研修会オンライン開催
2021年1月16日 参加者：42名

・助産師が伝える「いのちのはなし」事業の推進

- ① 助産師が伝える「いのちのはなし」小学校、中学校、高校にて開催 計8施設、9講座
- ② 地域向け家族で聴く「いのちのはなし」オンライン開催 低学年向け1回、高学年向け1回
(4回企画したが、参加予約がなく2回は開催なし)
参加者合計 延べ 親子5組(大人5名、子ども5名)参加

・地域貢献事業の推進

- ① 「とわ助産院」を開放しニーズに合った教室・講演を開催していたが、新型コロナウイルス感染防止のため、以下を中止した。
「10月8日とわの日」、母子のための教室(ベビーサイン・産後ボディケアなど)、沐浴クラス再開後は、沐浴クラス1組実施
- ② とわ助産院にて、横浜市産後ケア事業(宿泊型、日帰り型、訪問型)、大田区の産後デイケアの受け入れを継続し、新たに大田区の宿泊型も開始された。
- ③ 中学生2名の職業体験は実施せず、入院助産の受け入れはなかった。

(3) 行政機関や関係団体・企業との連携強化

・各種団体及び企業と連携し、助産師を派遣する

- ① 赤ちゃん本舗への講師派遣(アリオ橋本店、湘南テラスモール店)は、新型コロナウイルス感染防止のため実施中止(2020年3月より)
- ② 逗子市両親教室講師派遣 2021年2月19日実施
- ③ イオン東戸塚店の助産師相談(担当2名、毎週水・日曜日10時～17時)は、新型コロナウイルス感染防止のため中止(2020年3月～2021年3月)イオン東戸塚店と契約更新会議(2021年2月2日)イオン相談員ミーティング実施(2020年7月20日、2021年2月8日)
- ④ 2020年度より、県委託の新事業開始(新型コロナウイルス感染症に対する事業)
「神奈川県新型コロナウイルス感染症妊産婦等電話相談への助産師派遣」
(月曜日から土曜日10時から16時 祝日含む 年末年始除く)
2020年9月29日～2021年3月31日 相談件数228件
「神奈川県新型コロナウイルス感染症に感染した妊産婦への寄り添い型支援への助産師派遣」
2020年7月16日～2021年3月31日 6件実施

「令和3年度若年妊婦等支援事業」2021年4月より開始するための準備を実施

・ **要望書の提出等、行政機関との連携を強化**

関連団体に要望書を作成し郵送またはメール添付にて提出した。

県議会議員ヒアリングは、新型コロナウイルス感染防止のため中止。

2020年7月7日 45部郵送 自由民主党神奈川県議会議員団

2020年7月10日 1部郵送 県政会

2020年7月31日メール添付 立憲民主党・民権クラブ神奈川県議会

2020年7月10日メール添付 公明党神奈川県議会

2 助産師業務の安全管理及び支援業務

1) 助産師業務の安全管理

ヒヤリハット等の事例をはじめとし、安全管理にかかわる情報の分析による最新データから助産師を教育し、助産師1人1人が業務上の事故再発を防止及び災害発生時妊産婦、女性の支援体制の確立ができるよう以下の活動を行う。

・ **異常報告書による事例検討・分析を行い共有し再発防止を図る**

- ① 安全対策委員会にて、事例検討、分析を実施し事例分析結果を各部会に報告した。
- ② 神奈川県産婦人科医会医師2名（嘱託医、高次医療機関産婦人科医）新生児科医師1名を含めた、アドバイザー会議を年2回企画したが、新型コロナウイルス感染防止のため1回の開催となった。
2021年3月オンライン開催 医師3名へ事例提供、改善策の提案を図った。
- ③ 医療安全のためのリスクマネジメント研修会を2回開催した。
2020年11月7日 新生児フィジカルアセスメント 参加者54名
2020年12月12日 助産記録を考えよう 参加者32名

・ **緊急事態が発症した場合、適切かつ迅速な対応に臨む**：重症事例3件、事故調査2件

・ **助産師の損害賠償保険への加入推進**：部会集会やメーリング等で加入を促した。

・ **助産所と嘱託医・嘱託医療機関との連携強化を図るための報告会を開催**

助産所と嘱託医・嘱託医療機関の報告会は、新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

・ **助産師業務の安全管理を図る**

- ① 助産所部会で事例検討を実施、情報の共有により助産業務ガイドラインを遵守するよう周知、助産所における新型コロナウイルス感染対策の共有を図った。
- ② 助産所安全管理評価（感染防止のため個人評価）を実施し、日本助産評価機構助産所評価の推進を図った。
- ③ 新規開設助産所への訪問、転院搬送事例の聞き取り調査、助産所嘱託医・嘱託医療機関及び協力医療への情報収集を実施し、安全対策実施指導を行った。

・ **保健指導で開業している助産師に対する安全管理基準の周知徹底**

- ① ヒヤリハット事例1件、部会委員会で検討し、安全対策委員会と日本助産師会に提出した。
- ② 2021年2月20日 部会集会オンライン開催 参加30名 新型コロナウイルス感染対応での助産師としての取り組みとして、感染対策の啓発と周知、確認、損害賠償保険加入の推進を行った。

2) 支援事業

・災害時の妊産婦、女性を支援する

自然災害時に行政が対策本部実施の際、とわ助産院が「妊産婦・母子対策センターとなり、安全の確保と助産師のボランティア派遣を行う。

- ① 該当する災害はなく実施せず。
- ② 本部災害時安否確認訓練実施（2020年2月）理事、助産所部会、ハローベビー担当者、他会員に対し、170名の安否確認を実施した。
- ③ 災害時備蓄品の点検・補充の実施、災害時マニュアルを改訂し冊子を作成した。

災害支援体制の強化

- ① 神奈川県との災害時派遣協定が3月16日に締結した。逗子市との協定締結促進活動を実施
- ② 神奈川県災害時小児周産期リエゾン会議陪席は、新型コロナウイルス感染防止のため中止
- ③ 神奈川県各地区の災害対策委員による連携強化
- ④ 災害支援助産師の登録制度を組織化し、登録者57名、認定証やビブスを配布した。
- ⑤ 昭和大学の政策提案として、神奈川県と昭和大学、神奈川県助産師会の3者合同で「神奈川県における災害時の妊産婦・母子支援対策の整備」に取り組みを実施 3者会議に3回、昭和大学と神奈川県助産師会の2者会議に4回、参加した。

・災害発生時の支援に関する研修の開催

災害対策研修 オンライン開催 2回 （2月の研修は、昭和大学と共催）

2020年11月14日「神奈川県の保健医療救護体制」「災害時の妊産婦・母子支援の現状」参加者64名
2021年2月27日「災害時の妊産婦・母子を守るための支援方法の実際と対策のすべて」参加者109名

・すくすく赤ちゃん献金事業の推進

すくすく赤ちゃん献金贈呈 施設：特定非営利活動法人 子どもセンターてんぽ 10万円

2020年度献金預かり金合計 221,966円 （神奈川県助産師会 112,963円 日本助産師会 110,000円）

3) 調査・研究

以下の収集データにより調査・研究を行い、その結果をホームページ・会報から公表し、広く多くの人に周知させる。

・助産師が行う研究等の倫理審査の実施

研究倫理審査なし

・子育て・女性健康支援センター事業（ハローベビーかながわ）のデータ

ハローベビーかながわの電話相談件数・内容を集計しホームページに掲載。本部報告も実施予定。

・いのちのはなし事業のデータ

ホームページに調査報告を掲載した。

・助産所の分娩・搬送に関するデータ

分析を行い安全な助産所運営に役立てるため、各助産所へフィードバックをした。

・母子保健活動に関するデータ：

- ① 母乳育児支援自己評価調査（7月配布：152名 8月回収：80名 回収率：52.6%）は日本助産師会に提出し、機関誌に報告した。

- ② 都道府県助産師会保健指導部会活動調査に協力し、日本助産師会に報告した。
- ③ 神奈川県助産師会保健指導部会会員活動調査を実施し、ホームページに掲載した。

(7月配布：152名 8月回収：90名 回収率：59%)

・クリニカルラダー取得後の労働環境の状況把握

勤務部会：CLOCMiP取得後の労働環境の変化を明らかにするため、「アドバンス助産師の働く環境を管理者の視点から探る～神奈川県内で勤務する助産師の労働環境の実態調査より～」

2021年2月5日神奈川県母性衛生学会で発表

保健指導部会：会員活動調査を行い、クリニカルラダーの取得・取得予定の状況の把握を行った。

・助産所実習の受け入れ状況と進学・就職状況のデータの収集

2019年度分：2020年5月に実施 2020年度分：2021年4月に実施予定

II 助産師の資質向上のための教育及び環境整備に関する事業

1 助産師及び助産師養成機関及び看護職の能力向上・スキルアップ

1) 助産師の資質向上のための研修会・講習会

研修会ワーキンググループを組織し、研修会実施に向けて準備を行い、24の研修を企画した。

研修参加者人数 602名(会員 456名、一般 137名、賛助会員 3名)

※2020年度神奈川県周産期医療従事看護職員資質向上研修事業研修 (13)

新型コロナウイルス感染防止のため、以下の8の研修を中止した。

・助産業務スキルアップを図るための研修会

女性が起業するための経営手腕 part2 2020年5月16日

・母乳育児ケアに関する研修

※赤ちゃんの言葉の発達 2020年9月12日

※母乳ケア 乳腺炎ガイドライン 2020年9月12日

・産科救急対応に関する研修

※新生児蘇生法Bコース講習 2020年12月6日

※新生児蘇生法Sコース 2020年6月18日 午前・午後

2021年2月18日 午前・午後

※ALSOデモコース(肩甲難産と出血) 2020年8月 未定

※J-CMELS ベーシックコース 2020年9月6日 午前・午後

オンライン開催にて、以下の16の研修を実施した

・助産業務スキルアップを図るための研修会

CTG判読と対応 2020年12月5日 参加者 29名

助産師が伝える妊産婦の身体づくりについて～自分の力で産むために～

2020年12月5日 参加者 32名

・母子保健に関する研修

知ってる?! プレコンセプションケア ～新しい助産師の働き方を考える～

2021年1月30日 参加者 33名

若年女性の栄養と健康～アスリートの健康管理の経験から～

2021年1月30日 参加者 36名

妊産婦・こども・すべての女性を支える出前講座の実際 2021年3月13日 参加者 17名
新しい家族関係の構築を考える～特別養子縁組の制度の広がりに向けて～

2021年2月20日 参加者 44名

・電話相談等の相談業務の資質向上のための研修会

※帝王切開のケアをもう一度見直してみませんか？～当事者目線で帝王切開を考える～

2021年1月16日 参加者 42名

※きょうだい児の子育てに悩む妊産婦への関わり 2021年1月16日 参加者 42名

・助産業務に関する安全対策のための研修会

※母体感染の実態と対応 2020年10月11日 参加者 68名

※感染症の観察とケア 2020年10月11日 参加者 68名

新生児フィジカルアセスメント 新生児事例報告から学ぶ看護の視点、捉え方

2020年11月7日 参加者 54名

※助産記録を考えよう 2020年12月12日 参加者 32名

・災害対策に関する研修会

※神奈川県保健医療救護体制 災害時の妊産婦・母子支援の現状

2020年11月14日 参加者 64名

※災害時の妊産婦・母子を守るための支援方法の実際と対策のすべて

2021年2月27日 参加者 109名

・助産院留学の推進・各種講座の広報調整

助産院留学：新型コロナウイルス感染防止のため、実施せず。留学手順やホームページ掲載内容の見直しを実施し、留学生募集のチラシを配布した。（会員発送、施設発送、各研修会）

各種講座見学：いのちのはなし1名

「出前講座の実際」の研修会 オンライン開催 参加者 17名

・「いのちのはなし事業」における講師の育成

会議開催にて講義内容の検討、実施心得の作成、地域向け講座の企画をし見学者を受入れた。

2)円滑な学生実習の受け入れのための支援

・助産所実習調整を学校と助産所の連携強化を行い、助産所における実習の受け入れ環境の整備

助産所実習受入のための教育機関と助産所との調整会議

2回実施予定であったが、新型コロナウイルス感染防止のため6月の会議は中止した。

第31回教務部会 2020年12月11日 オンライン開催

出席者：教育機関 39校、助産院 10施設 計49名

内容：助産所実習の詳細な打ち合わせ、2021年度の実習についての説明、当会へ入会案内

・助産所における実習受入環境の整備（神奈川県からの支援あり）

実習を受け入れる助産所の支援：新型コロナウイルス感染防止のため今年度はなし

教務部会にて、助産所実習の中止や感染防止に配慮するよう教育機関、助産所へ周知した

・学生実習や助産師の研修受け入れを行い、後輩育成に努める

とわ助産院において、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、実習を中止する教育機関が

多かった。実習継続する学校、学生に対しては、感染防止に注意しながら、以下受け入れた。

看護学生 1校 4名、助産師学生 4校 10名、研修生 1名（1日間）

助産師会のほか他団体への協力として研修会開催場所として、感染対策をしながら提供した。

2 助産師の労働環境等の改善

以下の活動を行い、労働環境の改善を図ることで助産師・助産所の資質向上のための環境整備に力を入れていく。

・病院・診療所における勤務助産師の待遇改善への取り組み

アドバンス助産師の働く環境について調査研究開始

Ⅲ助産所の運営

本会の収益事業とし、とわ助産院の健全な運営を行う。

妊婦健診・分娩介助・育児相談等の事業を行うとともに、本会の公益目的事業である「助産及び母子保健の普及・啓発」を目指し、以下の活動を行う。

- ① 分娩件数 41 件 妊婦健診 325 件 産後健診 60 件 母乳外来 295 件
- ② 産後ケア事業 宿泊型 83 件 日帰り型 97 件 自費入院 11 件 述べ日数 451 日
(上記の件数のうち 大田区 宿泊型 25 件 日帰り型 43 件) 訪問型 29 件
- ③ 各種研修会・マタニティヨガ・ベビーマッサージ等開催のための研修室貸出し、助産師・学生の技術向上のための実習の場として活用してもらった。
- ④ 保育園への講演等、行政・近隣の子育て機関との連携強化に努めた。
(中学生の職業体験受け入れなし、入院助産受け入れなし)
- ⑤ 安全管理指針に基づく従業員への安全管理教育・施設の防犯・防災管理を徹底させ、安心安全な施設運営に努めた。
- ⑥ デジタルサイネージを使用し、広報活動につとめた。

とわ助産院運営会議の開催

分娩数の減少に対する対策の検討とともに、今後の会立助産院としての方向性や運営について、アドバイザーを導入した。多機能性などを踏まえた経営や未来を見据えた会立助産院のあり方など検討した。また、財務会議に参加し経営への話し合いを実施した。

Ⅳ会員相互扶助に関する事業

本部・他全国部会との連携の強化を図る。特に以下の活動を行うことで、本会の組織強化と福利厚生の実現を図る。

1) 連携促進による組織強化

- ① 本部の総会・研修会・部会集会に参加し、情報交換や連携を行った。
- ② 賀詞交歓会：新型コロナウイルス感染防止のため中止
- ③ 県下の母子保健サービス等の情報をシートに追加した。
- ④ 神奈川県医療政策提案へ「県立の産後ケアセンターの提案」を公募した。
- ⑤ 看護協会助産師職能委員会へ参加

2) 福利厚生

表彰(すくすく赤ちゃん献金表彰等)と表彰推薦を実施した。叙勲なし、慶弔3名
研修会参加補助のためのチケット発行(2000円券2枚)×会員608名

V その他

本会の基本財源である会費収益の安定化を図るため、会員ネットワーク推進等の会員増加対策の実現を目指す。また、各企業・団体への寄付の依頼活動も税制優遇措置を前面に押し出し、リーフレットの配布・ホームページからの呼びかけ等により、収益の安定化に向けた活動を積極的に行う

1) 事業活動や運営の安定と強化

理事会、とわ助産院運営会議、事業運営会議、未来戦略会議を実施し、会の活動・運営に関する必要事項を検討した。

2) 寄付依頼活動・会員ネットワークの推進・強化

・会員ネットワークの推進・強化

当会ととわ助産院のFacebookで研修会やイベントを掲載し、適宜更新した。
当会のリーフレットを発送時に封入し、アピールを図った。

・会員増加対策

会員特典である研修会チケットの発行(2000円×2枚)
入会予約キャンペーン(2021年1月～3月)、入会紹介キャンペーン(2020年4月～5月)を実施し、特典チケットを発行した。学校や病院、保健センター、会員にチラシ発送し、入会者計19名(紹介6人予約13人)2021年度は、研修のオンライン化に伴い研修チケットの発行を休止とし代替え案を実施予定。

・賛助会員入会促進活動

賛助会員数：個人4名、企業7社、学校2校 会費201,000円
病院・保健センター・企業に2020年度賛助会員に継続のお願い文書を送付した。

・会の円滑な運営のために寄付金を集める

寄付：関連企業139社に寄付依頼の文書を郵送 寄付者：個人1名、企業2社(合計124,775円)
ニューズレター(広報誌)、助産師マップへの企業広告(計7社)を募集し広告費収入を得た。

・組織内の連携強化

- ① 県下の7地区との情報交換や災害対策の体制づくりなど連携強化のために、第2回地区別連携集会をオンライン開催した。(2021年2月10日)
- ② 県下7地区代表者に要望等のアンケートを実施した。(2020年6月)
- ③ 部会集会やメーリングリストにて、本部・当会の活動状況や研修の案内等の情報共有に努めた。勤務部会は、新規にメーリングリストを作成した。

3) 財務管理

会の運営が健全に行われるように活動を行う

- ① 周産期医療従事看護職員資質向上研修事業の収支報告書作成
- ② 収支予算案の立案、毎月の収支管理、会計監査・決済報告
- ③ 寄付金や研修会チケットの集計と報告、会員人数及び動向を把握、会費の管理

以上